

工学部・工学研究院

I	研究水準	研究 9-2
II	質の向上度	研究 9-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、平成 18 年度の教員一名当たりの年間平均論文数は 4.7 件と高い水準を維持している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）は、年平均約 235 件（9 億円）で、特に若手研究（A）の採択が大きく伸びている。その他競争的外部資金の受入れ状況は、21 世紀 COE プログラム 2 件、グローバル COE プログラムが 1 件、科学技術振興調整費、主要 5 分野研究開発委託事業等大型プロジェクト事業 10 件（平成 19 年度）となっている。また、平成 18 年度では受託研究 96 件、共同研究 123 件、使途特定寄附金 318 件を受け入れており、活発な研究活動が展開されている。特に受託研究の受入れ件数が大きく伸びていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、工学部・工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノ・材料、エネルギー、社会基盤、学際・複合・新領域の分野で 12 のリサーチコアを形成し、中核研究拠点を目指した研究活動を行っている。特に、分子情報科学の機能イノベーションと水素エネルギー利用に関する研究は、世界をリードする研究教育拠点を形成しつつある。社会、経済、文化面では、地球資源システム工学、機械工学、環境都市、建設デザインの研究分野には社会的に有用性の高い研究成果が多く見られる。平成 16 年度から平成 18 年の 3 年間に、様々な研究分野で、文部科学大臣表彰、内外学会論文賞等約 50 件の受賞論文があるなど、優れた成果がある。

以上の点について、工学部・工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を

上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

